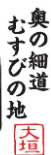


奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和八年八月度 入賞句一覧

投句数 六百三十一句

特選

度会 さち子 選

ボンネットに映る夏雲新車購ふ

揖斐郡池田町 木塚 しょう

買ったばかりの、ぴかぴかの新車のボンネットに映る夏雲。景がよくみえてくる。そしてこの車で、夏雲の湧く海、また高原にドライブをと、作者の弾むような気持ちも。新車の色は青か赤か。白雲が映るには青だっただろうか。

大ひまはり悲しく咲いてくれないか

大阪府堺市 棕本 望生

太陽に向かって咲く向日葵は明るく、元気が出る花にちがいない。だが、悲しく咲いてという言葉は逆に新鮮。この言葉のうらには、向日葵の有名な映画、その舞台でもあるウクライナがみえてくる。ウクライナではいつこうに戦争は止まない。家を、街を破壊され、子どもも含め多くの人が死んでいる。哀悼の想いがある。

黙禱をして炎天に縮む祖母

滋賀県長浜市 野口 成人

八月は祈りの月でもある。長崎、広島、終戦と続く。今年も八月十五日は、終戦をラジオで聞いたように炎天であつた。あれから八十一年。「黙禱をして縮む」という措辞には、年々小さくなつていく母の背に、これまで生きてきた年月、その思い、悲しみが、さらには平和を願う思いが重なる。佳句である。

秀逸

葛強し廃屋一戸飲み込んで

三重県いなべ市 新貝 里美

甘酒やとろりとろりと姉百歳

大垣市 宮脇 和子

ブラジル戦あと一秒の夏の朝

大垣市 後藤 慶子

信長の城に攻め入る雲の峰

岐阜市 古田 静子

打ち水をして子らを待つ駄菓子店

大垣市 大角 信華

ランナーに手を振る子らや青芒

大垣市 早笈 千恵子

影なき影よぎる垂井の泉かな

大垣市 小林 研

夏の果てそれぞれ違ふ方を見て

養老郡養老町 佐藤 咲染

風抜けてラヂオひとつの夏座敷

神奈川県平塚市 三留 明

祖母握る飯は粗塩男梅雨

埼玉県さいたま市澤田 紫

入選

一と振りの香水鏝ひハイヒール

養老郡養老町

田中 紫香

宵を待つ踊り櫓の影法師

大垣市

竹内 秀人

朝涼し疊の匂ふ仏間かな

大垣市

傍島 隆

御免札立てて力士の夏盛ん

大垣市

米山 春江

遠き日の男教師のコロンの香

大垣市

宇佐美 昭子

子燕の五羽と駅長だけの駅

東京都世田谷区

関戸 信治

手足出す一拍遅れの盆踊り

大垣市

高津 喜久子

自動ドア開き炎帝現はれり

不破郡垂井町

北村 廣美

篝火の爆ぜて鵜匠の面構へ

大垣市

村瀬 佐智子

舌出して見せ合ふ親子かき氷

福井県敦賀市

山田 美千代

流灯をしばらく子らが追ひかける

兵庫県神戸市

岸下 庄二

梅雨明けて少し広がる湖の岸

茨城県稲敷郡

杉山 満

梅雨晴間父の香強き枕干す

広島県福山市

中常 かつたろー。

サザンしか流さぬ厨豆ごはん

三重県四日市市

藤田 勝民

ひなげしの赤よ日が好き風が好き

岐阜市

堀江 美州

選者吟

抑留の軍靴の破れ盆の月

さち子



一般の部